

松くい虫被害に抵抗性のあるマツ苗木の育成^{なえぎ}

林業試験場

研究のねらい

全国的に猛威を振るっている松くい虫被害により、本県の海岸線や山間地の重要な松林が激減しています。薬剤による防除や被害材の駆除では予算的な限界があり、より効率的な松林保全方法が求められていることから、松くい虫被害に抵抗性のある松を選抜・育苗し、その抵抗性を明らかにする事により、県内松林の保全と再生に貢献します。

研究の成果

- ①県南部を中心に、激害型枯損により90%以上の被害を受けたマツ林から抵抗性候補木(1,200本)を選抜し、接種検定等を行った結果、アカマツ、クロマツ各1系統の抵抗性松を得ることが出来ました。
- ②中辺路試験地において他府県の検定合格系統を含め、アカマツ、クロマツ各0.5haの採種園(図1)を造成し、1997年より採種が可能となりました。(図2)
- ③この採種園から得た種子を基に実生苗を育成し、3年生時にマツノザイセンチュウ接種検定(図3)を行った結果、健全率はアカマツで平均69.3%、クロマツで52.9%となりました。(図4)
- ④接種検定の結果、健全であったものを「マツノザイセンチュウ抵抗性苗」として県内に配布しています。

成果の活用面・留意点

- ①抵抗性マツを海岸等の松くい虫被害地へ植栽することにより、効果的に松林を復元できます。
- ②抵抗性マツは松くい虫被害により枯れる確率が低いので、新たな被害発生源となる心配が少なくなります。
- ③現状の抵抗性は100%ではなく、松くい虫の攻撃が集中すると枯損する場合も考えられます。



図1 抵抗性マツの採種園

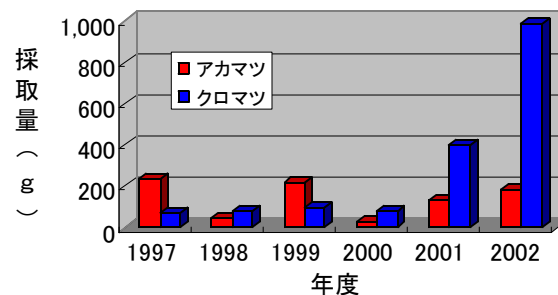


図2 抵抗性マツの種子採取量



図3 マツノザイセンチュウの接種

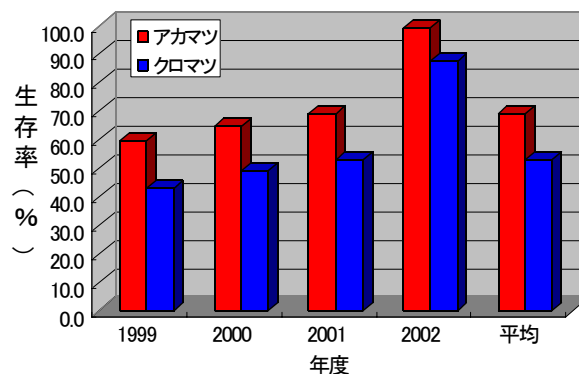


図4 マツノザイセンチュウ接種検定の結果

(問い合わせ先：0739-47-2468)